

# 山形県連小会報

第154号

発行日 令和元年5月31日

発行者 山形県連合小学校長会

鈴木一尋

山形市木の実町12-37

県教育会館(大手門パルズ)

## 県連小 第1回理事会報告

# 校長の「つながり」と「学び」をつくる県連小に ～声を届け合うことを大切にしたい～

### 鈴木一尋会長あいさつ

今年度、会長に指名をいただきました、山形市立第四小学校の鈴木一尋でございます。

県連小会員の一人として、精一杯努めてまいります。

さて、「山形県連合小学校長会」は、県内11地区において組織されている地区校長会の連合体です。会員一人一人の校長が、その職責をよりよく果たすことができることを目的とした組織です。

昨年度の第72回県連小研究協議会の折りに、先輩の校長先生から「会員数が減りましたね」という話をいただきました。山形ビッグウイングの大会議室の座席数396席に対して、校長数243人、150席も空席になっています。10年前の平成20年には、県内の小学校数は322校でした。この10年間で79校も減ったのですから、「会員数が減りましたね」という先輩の驚きもよくわかります。児童数もこの10年で12,000人近く減っています。このような時代に校長を拝命している私たちは、一人一人が自立しながら、子ども、保護者、地域等の信頼を得ていく必要があります。県連小活動方針には、次のような校長の役割を掲げています。

『校長は、自らの責任と使命を自覚し、時代の潮流を捉える先見性と不易流行を見極める見識をもって経営ビジョンを描くこと、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善、次代を担う教職員の資質・能力の向上、学校組織の活性化、施設設備の改善など、学校経営の充実にリーダーシップを発揮することが求められる。』

ここで言われる『時代の潮流を捉える先見性と不易流行を見極める見識』は、校長が自ら学び身につけていくべきものです。しかし、校長の数が減り、学校がさらに忙しくなっている今、校長が学ぶこと自体が難しい状況にもあります。このよ



うなときだからこそ、校長同士がつながり合い互いに学び合う環境をつくる必要があるのです。そのために県連小は次の活動を進めてまいります。

1. 学校経営の充実に資する研修を推進します。  
東置賜地区校長会と連携し、第73回山形県連合小学校長会研究協議会の開催運営に努める。
2. 研究紀要等で情報を発信します。

全連小・東北連小研究協議会の内容、県連小理事研修会の内容、研修委員会や生徒指導員会等の専門委員会での調査研究結果などを発信し、課題を含めた情報の共有に努める。

3. 人事、行財政、給与等の対策活動を推進します。

県連小の組織は、11地区から選出された理事、対策委員、生徒指導委員、研修委員と幹事で構成されています。地区校長会の声を県連小に届け山形県の声にすること、それを、県連小から東北連小・全連小へと届けていくこと、そして、その逆の流れも滞ることなく行うことが大切だと思っています。そのためにもスタートである地区校長会で大いに語り合ってください。「校長は孤独である」と言われますが、語り合い、つながり合う地区校長会でありたいものです。

平成31年度(令和元年度)の山形県の小学校数は241校です。241人の校長が自分の学校に軸足を置いて考えを出し合い、いろいろな情報に学び、241通りの学校経営を更新していく。一人一人の校長が自分らしく学校経営できるように、県連小は校長の「つながり」と「学び」をつくる努力をしてまいります。各地区校長会と会員の校長先生方のご理解とご協力をお願い申し上げます。



## 新副会長あいさつ



### Only Oneの学校経営に資する校長会

副会長 齋藤英敏

平成から令和へと変わる大きな節目の年、私が所属する山形市小学校長会では、会員38名のOnly Oneの学校園に資する校長会の在り方を探究しながらの活動をスタートさせました。その目的の達成のために、「Pride」「原点回帰」「対話&伝達」を大切にしたいワードとして掲げています。

そのワードには、中核市である県都山形の学校の校長及び校長会としての誇りを胸に日々学校経営にあたらうという志と、変化の時こそ「校長とは？校長会とは？」という原点に立ち返ることの必要性、重要性を会員皆で考えていきたいという意図があります。

また、山形市小学校長会では、会員15名が年度末に定年を迎え、過去に例のない大人数のメンバー交代が余儀なくされます。校長会として大切に引き継いできた事柄や各校長が長年の経験から得た知見等を、会員同士の多様な対話をとおして伝えていくことも大変重要な年であると認識しています。

冒頭に述べましたが、校長会の活動の最終的な目的は、それぞれの学校経営に資することであると考えます。これは、山形市に限ったことでなく、県内すべての地区に当てはまることであると言えます。

鈴木会長を支えながら、県内すべての小学校の充実、発展に資する山形県連合小学校長会を目指して、微力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



### 子どもたちの明るい未来のために

副会長 國井由紀子

このたび、県連小の副会長という重責を担うこととなり、身の引き締まる思いです。鈴木会長のもと、県連小の更なる発展のために微力ではありますが、精一杯務めてまいりたいと思います。

さて、今、教育界は様々な課題に直面しています。情報化、グローバル化などにより社会は急速に変化

しています。また、いじめ・不登校問題への取り組みなど、課題が山積しています。そんな中、一人一人の子ども力を伸ばそうと、非常に多忙な業務の中努力している教職員がいます。「働き方改革」の推進も喫緊の課題です。今年度は新学習指導要領移行期最終年度でもあり、校長のリーダーシップがまさに今、求められています。

これからの時代を生きぬく子どもたちは、様々なかわりの中で、人生を切り拓いていく力を身に付けなければなりません。校長として先見の目を持ち、どう取り組んでいくかを具体的に見極めていく必要があります。

そのためにも、各地区校長会のつながりを大事にし、すべては子どもたちの明るい未来につながっていることを心し、研鑽に励んでいきたいものだと考えています。



## 「繋ぐ」

副会長 渡部敬

今年度の県連小研究協議会がヒルズサンピアに会場を移して実施されるに当たり、主管される東置賜校長会の皆様には、大変なご苦労をおかけします。しかし、その成果をしっかり引き継ぎ来年度へ繋いでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

ということで、第74回県連小研究協議会の主管を田川地区校長会が務めることになり、今年度は副会長と共に研修委員会をも担当することになりました。平成23年度の全連小山形大会の時に、「立ち位置確かに足場を強く」という合言葉の元、県下小学校長が丸丸となって研究協議会の運営に携わったことを思い出しながら、今年一年自分の職責を果たしていきたいと思えます。

新学習指導要領完全実施や、「働き方改革」を踏まえた取り組み等、校長のカリキュラムマネジメントが問われておりますが、連合体としての組織力を強めながら、各地区校長会の取り組みを学び合い、高まり合うように努めていきたいと思えます。

鈴木一尋会長を中心とし、令和元年度の県連小諸活動がアクティブに実り多いものとなりますように、微力ながら粛々と働きかけていきます。

## 県教育委員会のご指導

### 1 竹田 啓 義務教育課長より

【平成31年度（令和元年度）事業の重点】

- 教育山形「さんさん」プランを基盤とした確かな学力の育成
- 探究型学習推進による「主体的・対話的で深い学び」の実現（探究型学習について、全指導主事の共通理解のもと、すべての小中学校に指導できるようにし、全县での共通理解を図る。）
- 山形県学力等調査の実施（4月に、小学5年生・中学2年生を対象に県内全小中学校で実施。）
- 山形県免許法認定講習（英語）
  - ・受講資格（小学校教諭普通免許状所持者で3年以上の実務経験がある現職教員）
  - ・修得単位（教科に関する科目10単位、教職に関する科目4単位 合計14単位）
  - ・免許状取得（県教委へ免許状取得申請の手続き、中学校教諭2種免許状取得）
- 学校組織マネジメント研修会
  - ・県内小中学校の校長又は教頭を対象として、教育事務所ごとに年1回開催。
  - ・本研修を踏まえ、各学校においてカリキュラムを見直す。
- いじめの防止等に向けた取組
  - ・教職員・児童生徒・保護者に対するいじめ防止対策の周知の徹底（いじめの正確な認知に関する教職員間の共通理解、法律の趣旨や内容、いじめの定義等を見児童生徒及び保護者に確実に周知）
  - ・いじめの認知件数が0（ゼロ）の学校における公表と検証（認知件数が0であった場合、児童生徒や保護者に公表し、認知漏れがないか確認）
  - ・「魅力ある学校づくり」調査研究事業の取組等（新庄市立日新中学校をモデル校とし、最上地区の22小学校、11中学校、1義務教育学校が参加して取り組んだ本事業において、不登校児童生徒の新規数抑制につながった。）
- 教科書の検定・採択・使用周期についての確認
  - ・教科書編集等に関わった者は、採択には関わらないことを徹底する。

### 2 那須 隆秀 教職員課長より

- 新教育長（菅間裕晃教育長）訓示より
  - ・教育に関する環境や信頼を作り上げる大切さ
  - ・次代を担う人づくりの重要性
  - ・6教振後期計画策定に向けた検討
  - ・先を見通した施策や危機管理
  - ・「働き方改革→教職の魅力→教員志願者の増加→教育力の向上」の好循環へ
- 学校における働き方改革の推進
  - 学校における働き方改革の目的は、限られた時間の中で、子どもと向き合うための時間を十分に確保するとともに、子どもに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすること。
  - ・「取組み手引き」【改訂版】の活用（昨年度いただいた800超の取組事例報告を分析・整理し、追加掲載した。）
  - ・スクール・サポート・スタッフ、部活動指導員等の配置拡充（スクール・サポート・スタッフは昨年度30人から今年度36人へ、部活動指導員は49校から91校へ。）
  - ・県立学校へのタイムレコーダ・留守番電話の設置
  - ・小中学校の時間外勤務等調査
- 信頼される学校づくり
  - ・教職員の服務規律の徹底（「飲酒」に関連した不祥事防止の取組を確実に。）
  - ・「いい職場、いい教員にこそリスクがある」（大多数の教員は誠実に懸命に不祥事を起こさない努力をしている、価値づけ・励ましを。）
  - ・管理職候補、ミドルリーダーの育成（その教員の数年後を見据えた校長の励ましの一言が背中を押すことに繋がる）
  - ・教員免許の「うっかり失効」（失職）の防止→制度の確認・点検
  - ・新規採用職員の精神疾患が増加傾向（新規採用職員を育てる「メンター」の配置ときめ細かな指導・支援を。）
  - ・管理職の病休も報告されている。管理職自身の健康管理も大切に。



### 理事研修会議

テーマ 「教員の多忙化解消及び働き方改革への対応」について

議長 長谷部 薫 副会長

#### 趣旨説明

平成30年2月に、文部科学省より「働き方改革」に関する通知が出され、働き方改革は本県においても喫緊の課題となっている。そこで、教職員の多忙化解消及び働き方改革への取組の状況について情報交換を行い、学校運営の改善に向けた研修を進める。

#### 【各地区より】(抜粋)

##### 1 これまで行ってきたことと今年度行うこと

- 教員の現状を保護者に伝え、理解を促しながら、これまで土日で開催していたPTA学年行事を平日開催としたり、PTA会合等を社教施設のミーティングルームで開催していただいたりしている。
- これまで児童と教職員で行っていたプール清掃を、保護者の奉仕作業とした。
- 日番業務を廃止した。
- 教育活動全般を見渡して、「なくてもよい」と判断できるものはもちろんだが、「あった方がよい」と考えられるものも思い切って見直しを図る必要がある。本校では、1年生を迎える会も6年生を送る会も削減した。
- 文集について、国語科としてつけるべき能力と、学校文化の記録伝承という観点から再検討し、全校文集ではない形(学級・学年に応じた作品のまとめ、デジタルデータによる保存・公開)に変えた。

○家庭訪問はやめて、学校での個人面談に時間を十分にかけるようにした。教員の負担軽減とともに、保護者が家庭訪問のために休暇を取ったり片付けをしたりする手間が省け、双方にとってメリットがあった。

##### 2 今後さらに進める必要があること

- 学校単位で成績処理ソフトを導入・活用しているところが多い現状であるが、今後はさらに市町村単位で共通した校務支援ソフトを導入していただきたい。教員は、市町村をこえた異動もあり、全県で同じ校務支援ソフトを導入していただければ理想的である。
- 保護者に対する周知と理解の深化については、今後も継続的に行っていく必要がある。「学校における働き方改革の実現」に関する文部科学大臣メッセージも配付しながら、総会やPTAの理事会など機会を捉えて、校長が率先して説明し、理解と協力を呼びかけたい。
- 教職員の意識改革も重要である。従来通りの働き方でなく、より効率的な働き方によって創出した時間で、子どもとじっくり向き合うとともに、教職員自身の生活も充実させていくことが必要である。



### 令和元年度山形県連合小学校長会役員一覧

会長  
鈴木 一尋(山形四)

副会長  
齋藤 英敏(山形二)  
長谷部 薫(新庄)  
渡部 敬(朝陽六)  
國井由紀子(天童南)  
竹田 俊章(飯豊二)

監事  
岡村 廣(上山南)  
青山 博文(神町)  
村越 靖(大谷)

事務局長  
大沼 篤

地区	役名	理 事	対 策 委 員	生徒指導委員	研 修 委 員
山 形		齋藤 英敏(山形二)	長岡 佳孝(山形十)	木村 和彦(大曾根)	板垣由紀子(東 沢)
上 山		竹田 典克(宮 川)	丹野 芳弘(上 山)	石原 敏行(西郷一)	武田 直也(中 川)
東村山		國井由紀子(天童南)	石井 康友(津 山)	熊澤 晃佳(山 口)	中田 敦(長 岡)
西村山		石垣 伸介(谷地中部)	丹野 宏紀(谷地西部)	吉田 祐子(白 岩)	小池 博人(三 泉)
北村山		工藤 幸吉(楯 岡)	土屋 常義(大 森)	高嶋 敏春(富 並)	樋口 良彦(高 崎)
最 上		長谷部 薫(新 庄)	齋藤 憲男(貞劉あさひ)	京野 亮(赤 倉)	内和 通(大 蔵)
米 沢		上村 幸治(東 部)	佐藤 繁(窪 田)	会田 均(三沢西部)	金子 明夫(松 川)
東置賜		半田 和彦(高 畠)	金子 研司(屋 代)	石塚 良文(中 川)	片倉 和之(中 郡)
西置賜		竹田 俊章(飯豊二)	佐々木友明(西 根)	高橋 彰(鮎 貝)	梅津 靖雄(豊 田)
田 川		渡部 敬(朝陽六)	松田 裕可(あつみ)	井上 東一(藤 島)	樋坂 聡(朝陽四)
飽 海		渡邊 幸二(浜 田)	朝岡 剛(新 堀)	出嶋 幸(浜 中)	菅原 覚(高 瀬)
担当理事				工藤 幸吉(楯 岡)	渡部 敬(朝陽六)
幹 事		幹事長 池田 友子(山形七)	瀧浪 敦(南山形)	江口 俊和(南沼原)	渡邊 和浩(東 )
		会計 樋口 潤一(附 属)	金子 孝宏(西山形)	樋口 潤一(附 属)	佐藤 昌彦(金 井)